

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

| | | |
|---|---------------------|---------------------------------|
| 事業名 一般国道220号 <small>しんじょうかくふく</small> 新城拡幅 | 事業区分 一般国道 | 事業主体 国土交通省 九州地方整備局 |
| 起終点 起点： <small>かごしまけんたるみずしんじょう</small> 鹿児島県垂水市 新城 終点： <small>かごしまけんたるみずしくぬきぼる</small> 鹿児島県垂水市 柘原 | | 延長 5.8km |
| 事業概要 国道220号新城拡幅は、現道拡幅や歩道設置により交通安全性の向上や沿道環境の改善を図ることを目的とした延長5.8kmの道路である。 | | |
| S58年度事業化 | | S61年度都市計画決定 |
| S60年度用地着手 | | S62年度工事着手 |
| 全体事業費 | 約155億円 | 事業進捗率 |
| 90% | | 供用済延長 |
| 5.1km | | |
| 計画交通量 | | |
| 6,800～9,000台/日 | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) | 1.4 |
| | (残事業) | 1.3 |
| 総費用 (残事業)/ (事業全体) | | 9.9/205億円 |
| (事業費) : 9.9/205億円 (維持管理費) : 0.00/0.00億円 | | 総便益 (残事業)/ (事業全体) |
| 13/283億円 | | 基準年 平成21年 |
| (走行時間短縮便益) : 12/253億円 (走行費用減少便益) : 0.89/25億円 (交通事故減少便益) : 0.12/5.1億円 | | |
| | | |
| 感度分析の結果 交通量変動 : B/C=1.7 (交通量 +10%) B/C=1.1 (交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=1.2 (事業費 +10%) B/C=1.5 (事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=1.2 (事業期間+20%) B/C=1.4 (事業期間-20%) | | |
| 事業の効果等 ①交通事故の減少 ・交通事故減少による安心感の創出 ・未整備区間では、歩道も車道も狭く、歩行時も自動車通行時も危険を感じる（地元の声） ②安全な通学路の確保 ・歩行者（通学者）の安全性向上 ・子供たちが安心して通行できるようになった（地元の声） ・新城拡幅沿線の小中学生の通学人数（141人） ③交通の円滑化 ・歩道未整備の区間では、自転車・歩行者への配慮のため、速度低下が生じている（地元の声） ④産業活動の支援（観光） ・平日と比較した休日交通量の増加割合（1.02倍） ・垂水市の観光客数（3.3倍） ・休日の交通円滑化の便益【約2.1億円※】 ⑤歩道の整備 ・歩道整備率の増加（H1：5%→H20末：88%） ⑥環境改善（騒音の低減） ・国道220号（垂水市柘原）の騒音レベルが環境基準を満足（昼間 整備前（H17）：72dB→整備後（H42）：70dB（夜間 整備前（H17）：67dB→整備後（H42）：65dB） ⑦良好な歩行空間の確保（植栽帯設置） ・学校周辺の緑が増えてウォーキングする人が増えている（地元の声） ・街路樹が植えられ緑が増え、町並みがきれいになった（地元の声） | | |
| ※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値） | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 垂水市をはじめとする関係首長及び議会議長等で構成される大隅総合開発期成会（会長：鹿屋市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成20年7月） | | |
| 県知事の意見 今回、事業評価委員会において事業継続とされた事業は、当県にとって必要な道路整備であり、早期に | | |

整備すべき事業である。

については、本県の道路整備の状況を踏まえ、早急に対応方針（案）に基づき方針を決定し、事業の整備促進に努められるよう、次のように意見する。

- ・一般国道220号新城拡幅は、交通混雑の緩和や交通安全の確保など、県民の安心・安全を確保する観点から、早期に完成供用を図ること。
- ・今後、再評価に係る意見聴取を行う場合は、貴局の対応方針（原案）を作成する段階で行うこと。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

垂水市の自動車保有台数は年々増加、さらに、垂水市から鹿屋市への通勤通学人口も増加している。また、事業区間の交通量は年々増加している

事業の進捗状況、残事業の内容等

これまでに、5.1kmを供用しており、平成20年度末の事業進捗率は事業費ベースで約90%であり、そのうち用地進捗率は約96%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、柘原地区及び宮脇地区の早期整備を進める。

施設の構造や工法の変更等

- ・用地測量等の実施結果を踏まえた見直し【約15億円】

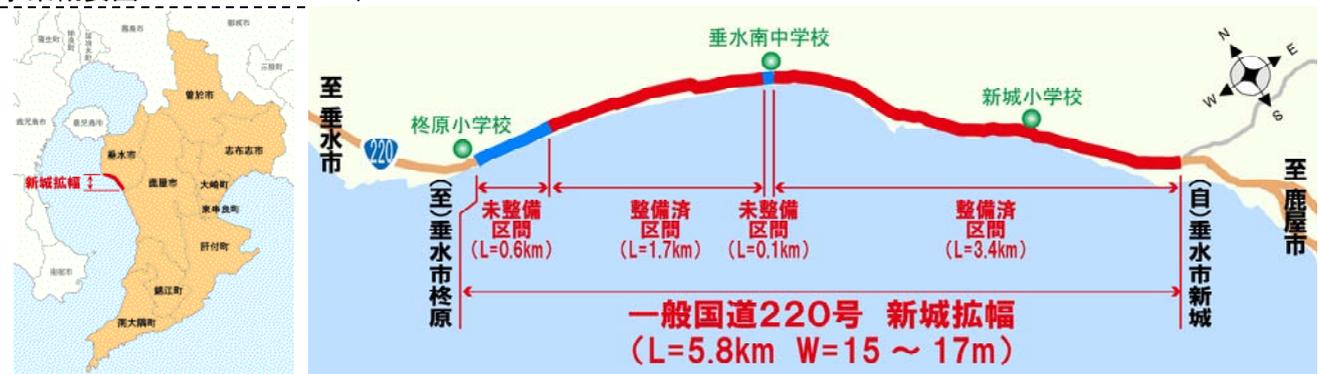
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。